

みえ産業振興ビジョンの概要 ①背景

国内外を取り巻く時代環境は目まぐるしく変化、先行きも不透明。

- ◆ 現行の「みえ産業振興戦略」は、第4次産業革命以降の時代環境の激変までは捉え切れてはいない。
- ◆ 政府がめざす人類史上5番目の新しい社会「**Society5.0**」の到来を見据え、「**みえ産業振興戦略**」を全面的に改訂。

社会経済情勢の変化	現行戦略の総括	政府がめざす社会
<ul style="list-style-type: none">➢ 人口減少・超高齢社会の到来、若者の県外流出➢ 第4次産業革命による産業・就業構造の大転換➢ 多様な働き方の拡大➢ 高速交通ネットワークの拡大➢ 世界経済の中心がアジアへシフト	<p>リーマンショックにより、本県の産業が世界経済の影響を受けやすい構造であることが明らかになったことから、平成24年7月にみえ産業振興戦略を策定（H28.3改訂）し、強じんて多様な産業構造の構築に向けた取組を展開</p> <ul style="list-style-type: none">➢ 県内主要産業（電気機械、自動車、石油化学）は再び成長軌道に乗るとともに、航空機や食関連産業をはじめ、観光産業も活発化しつつある➢ サービス産業については、付加価値が増加しているものの、生産性向上が喫緊の課題	<p>第2次産業革命 電力・モーター</p> <p>第4次産業革命 IoT、AI、ロボット等</p> <p>狩猟社会 農耕社会 工業社会 情報社会</p> <p>Society5.0 超スマート社会</p> <p>第1次産業革命 蒸気機関</p> <p>第3次産業革命 コンピュータ</p> <p>今後、産業界にとって、「リアルデータを生み出し続ける顧客等との接点をいかにして獲得するか」が競争優位を確立するための鍵。</p>

みえ産業振興戦略の全面改訂

みえ産業振興ビジョン 策定！

特徴・位置づけ

- ① 概ね10年先を見据え、三重県の産業だけでなく県民生活や地域社会を取り巻く環境の変化等を想定しながら、**中長期的な視点で、めざすべき産業の姿や産業政策の方向性を提示。**
- ② 産業分野別の振興策だけではなく、県内の産業を振興することで、**地域社会の様々な課題の解決にもつなげるという視点**で政策を構築。
- ③ 広く県民の皆さんの意識の変化を促し気運を高める、とりわけ10年後、20年後に地域社会の担い手である**若者、子どもたちに県内の産業で活躍したいと思ってもらえるビジョン**とする。

みえ産業振興ビジョンの概要 (2031年頃のイメージ、課題)

1. 第4次産業革命等への適応

- 県内ものづくり企業がICTを最大限に活用して、力強く付加価値を増加
- 他県に先駆けてスマート・ファクトリー化も進展
- 県内農林水産業でICT活用が進み、若者に魅力ある稼げる産業に
- 空飛ぶタクシーの運行により、新たな観光需要を創出

2. ダイバーシティ社会へ

- ICTを活用した多様な働き方により大都市に行かずとも、地方の小さな町にしながら、直接世界とつながる

3. スーパー・メガリージョンにおけるプレゼンスの向上

- リニア中央新幹線の開通や高速道路ネットワークの進展、さらには2033年の第63回式年遷宮もあいまって、三重県が全国有数の観光先進県に

4. アジア経済圏の一翼を担う

- 「みえの食」が、世界中から注目され、食関連産業が本県経済を牽引する主要産業に成長
- 三重県が、日本を象徴する文化や、日本人の精神性を体感したいと思う欧米やアジアからの訪日外国人が必ず立ち寄る観光地に

5. 地域課題の克服

- 自動走行のコミュニティバスや一人乗りパーソナルビークルが活用され、高齢者の買い物や移動、離島や中山間地の子どもの通園・通学の利便性が向上。さらには空飛ぶクルマが実用化され、速くて便利なヒト、モノの移動が可能に。
- 介護現場でのロボット・センサー等の活用により、労働環境が大幅に改善、利用者への最適ケアの提供が可能に

2030年頃の
産業等のイメージ

7つの課題

① IoT, AIのビジネスへの積極的な取り込み
(第4次産業革命への対応)

② 今後、成長が期待される産業分野の育成

③ アジアシフト化する世界経済への対応

④ 新たな知恵や知識、技術の取り込み、
新しい価値の創出

⑤ 企業の社会的責任としての活動
(地域課題解決等)の促進

⑥ 人材の確保・育成と多様な働き方の実現

⑦ 中小企業・小規模企業の振興と
サービス産業の生産性向上

企業・現場の声など

- 県内企業のIoT, AIの導入・利活用や、ICT人材の強化に対する認識が低い

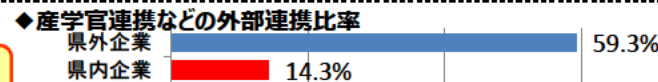


- 今後成長を期待している産業・技術分野 (県内外企業アンケート)
クリーンエネルギー、次世代自動車、観光、AI・IoT、食品・農業、ロボット

- 県内企業の海外展開の遅れは、依然として課題



- 県内企業の外部連携は依然として課題
ビジネスでは「これまで誰もやっていないこと」に価値がある (若手経営者)



- 本業を通じた地域活性化を重視する
県内企業が増加



- 経営上の課題として「従業員の確保」を挙げる企業は46.5%で最も多い

充実した仕事をしながら、プライベートも楽しみたい。日々新しいことを吸収し、成長していきたい。(学生)

今を維持していくのが精いっぱい。10年先の变化など考える余裕がない。一緒に考えてほしい。(小規模企業経営者)

- 中小企業・小規模企業は県内企業数の99.8%、従業者数の88.7%、付加価値額の78.3%を占め、地域の雇用や経済、社会を支える基盤

みえ産業振興ビジョンの概要 ③めざすべき姿、理念、取組方向

めざすべき産業の姿（3つの視点）

- 1 第4次産業革命への適応
- 2 「若者」に魅力あるしごとの創出
- 3 「KUMINAOSHI」による新しい価値の創出

※**KUMINAOSHI**とは
「組み直す」という言葉が意味する「配列や編成を変えること」ではなく、「企業活動や地域活性化の取組などにおいて、人材や技術、地域の資源、ビジネスなどのさまざまな要素について、既存のものだけでなく新たなものを積極的に取り込み、それらを組み合わせたり、繋ぎ直したりすることで、イノベーションを起こし新たな価値の創出につなげること」

基本理念

既存価値を超え、**KUMINAOSHI**の産業政策で若者が躍動する三重
～知恵や知識、技術を組み合わせ・繋ぎ直し、共感と協創による新しい三重の産業創出～

「組み合わせ」や「繋ぎ直し」による新しい価値の創出



4つの取組方向

取組方向1 ものづくり産業の第4次産業革命への適応

本県の強みであり、地域経済を牽引している「ものづくり産業」のスマート化やICTの人材育成などを進める。

全国初となったマイルージ制の企業投資促進制度を拡充させ、ものづくり産業のスマート化などを促進

- ◆次世代自動車産業の振興
- ◆航空宇宙産業の振興
- ◆次世代素材産業の振興
- ◆ヘルスケア産業の振興 等

取組方向2 多様な魅力（特性）を生かした付加価値の創出

世界にも誇れる県産食材や県産品、県内観光資源など、多様な三重県の魅力を再認識し、それらの活用を一層促進する。

- ◆「食」関連産業の振興
- ◆次世代IT・産業の振興
- ◆戦略的なプロモーション活動の展開 等
- ◆観光の産業化の加速
- ◆サービス産業の振興

県内総生産の約3%（自動車産業：約7%）をも占める観光産業の稼ぐ力の強化

取組方向3 人口減少社会での地域課題の解決への貢献

人口減少や高齢化が進展し、さらには若者の県外への流出が続く中、産業政策を通じて、地域課題の解決を進める。

- ◆円滑な事業承継
- ◆生活関連サービス産業の振興
- ◆「産学官連携拠点」との連携等による地域課題解決への貢献 等

三重大学や東京大学「地域未来社会連携研究機構」のサテライト拠点との連携

取組方向4 産業プラットフォームの強化

1～3の取組方向に沿って力強く施策を推進していくため、産業基盤やネットワークを強化する。

- ◆中小企業・小規模企業の振興、ICT化の促進
- ◆人材の育成・確保
- ◆戦略的企業誘致の推進
- ◆クリエイティブな視点による新たな価値の創出 等

三重県全域をクリエイティブ活動の実験フィールド(ラボ)と捉え、あらゆる分野でオープンイノベーションを促進し、新しい価値の創出につなげる